

第1回 第2期松原市教育振興基本計画策定委員会

日時：令和4年8月1日（月）

午後7時

場所：松原市役所8階大会議室A

1 開会

(1) 教育長挨拶

事務局：皆さん、こんばんは。皆さんお揃いになられたため始めさせていただきたいと思っております。本日はご多忙の中、第1回第2期松原市教育振興基本計画策定委員会にご出席いただき、ありがとうございます。この第2期松原市教育振興基本計画策定委員会は松原市教育振興基本計画策定委員会規則第6条に基づき教育委員会が招集するものです。委員長の選出後は委員長が策定委員会を招集し、その議長となりますが、委員長を選出するまではこちらで進めさせていただきます。また記録として写真を撮影させていただきます。ご理解賜りますよう、よろしく願いいたします。それでは、まず開会にあたりまして、松原市教育長美濃よりご挨拶を申し上げます。

美濃教育長：皆さん、こんばんは。松原市教育長の美濃と申します。平素は松原市の教育行政にご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。本日は、このように遅い時間、またお仕事が終わってお疲れのところを、お集まりいただきありがとうございます。改めて申し上げるまでもないかもしれませんが、教育振興基本計画とは、教育大綱を具現化する計画でございます。この第2期松原市教育振興基本計画は、この令和4年度、5年度の2か年をかけて令和6年度から令和10年度までの計画を立てていただくというものでございます。中央教育審議会では、一人ひとりの児童生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、そのような人々と共同しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き持続可能な社会の作り手となることができるようにすることが必要だということを言っています。新型コロナウイルスの感染拡大など予測困難な時代を、自らの力で切り開いていくと。一人ひとりの幸せと社会全体の幸せの実現を目指すことができる子どもたちを育てる学校作り、そのために新たな教育振興基本計画を作るということにお力添えをいただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。

(2) 委嘱状及び任命状の交付

事務局：次に委嘱状及び任命状の交付ですが、本来ならば委員お一人お一人にお渡しするべきところですが、時間の関係上机上に配布しております。ご氏名に誤りがないかご確認をいただきたいと思っております。

(3) 委員紹介

事務局：（委員紹介）

(4) 事務局紹介

事務局：（事務局紹介）

事務局：続きまして案件に入ります前に、本日配布資料の確認をさせていただきます。資料の方をご覧ください。資料1につきましては、議案2で使用します諮問書の写しでございます。資料2は当委員会の松原市教育振興基本計画策定委員会規則でございます。資料3は議案3で使用します会議の公開に関する指針でございます。資料4は松原市教育振興基本計

画策定委員会に係る、議事録取扱要領でございます。資料5は松原市教育振興基本計画策定委員会傍聴要領でございます。資料6は議案4で使用します第2期松原市教育振興基本計画策定委員会における審議予定でございます。資料7は議案5で使用します第2期松原市教育振興基本計画策定方針(案)でございます。資料8は議案6で使用します市民意識調査アンケート(案)の関係書類でございます。資料9は議案7で使用します第2期松原市教育振興基本計画策定のための資料集でございます。続きまして資料10は本市の第5次総合計画となります。資料11は教育に関する事務の点検・評価結果報告書令和2年度実績版となります。資料12は令和4年度松原市立学校園に対する重点指導事項、社会教育の重点事項となります。また、参考資料といたしまして資料1文部科学省第3期教育振興基本計画となります。参考資料2文部科学省第3期教育振興基本計画概要となります。参考資料3大阪府教育振興基本計画となります。参考資料4大阪府教育振興基本計画概要となります。参考資料5文部科学省次期教育振興基本計画(諮問)の概要となります。参考資料6文部科学省令和の日本型学校教育の構築を目指して方針総論解説となります。参考資料7文部科学省令和の日本型学校教育の構築を目指して方針概要となります。最後にお手元に別冊としまして、松原市教育大綱を含みます松原市教育振興基本計画の冊子でございます。以上となっておりますが、すべてございましたでしょうか。ありがとうございます。

2 議案

(1) 委員長及び副委員長の選任

委員長：選任されました、西井です。何卒よろしく願いいたします。第1期でこの松原市教育振興基本計画策定をさせていただきました。いわば自分自身でも、そこをベースにしながら、この第2期松原市教育振興策定計画を皆様と共に作り上げたいと思います。どうか、よろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございました。

(2) 第2期松原市教育振興基本計画の策定について(諮問)

事務局：では、委員長と副委員長が決定いたしました。議案2につきまして、教育委員会を代表し美濃教育長より西井委員長に対し、諮問をお願いしたいと思います。なお、委員の皆様におかれましては資料1諮問書写しをご覧いただきたいと思います。美濃教育長、よろしく願いいたします。

教育長：第2期松原市教育振興基本計画について(諮問)教育基本法第17条第2項の規定に基づく第2期松原市教育振興基本計画の策定に関し、貴委員会の意見を求めます。どうぞよろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございました。それではこの後の議事進行につきましては、西井委員長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(3) 会議の傍聴・公開について

委員長：それでは委員長の方で、これから議事を進めさせていただきます。よろしく願いいたします。まず議案3の「会議の傍聴・公開について」の議題といたします。事務局からの説明をお願いいたします。

事務局：お手元の資料3「会議の公開に関する指針」をご覧願います。この指針に関しましては、本市の審議会の公開についての取り扱いをお示しさせていただいたものです。この指針3で、「審議会の会議は、条例及び規則で定めるものを除き、公開するものとする」、4で「審議会の会議を非公開とするときは、審議会の会長が当該会議に諮って決定するものと

する」と定められております。この策定委員会につきましてもそれに基づき、会議の公開・非公開を決定していただきたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

委員長：この第2期松原市教育振興基本計画策定委員会を公開にするかどうかについては、皆様にお計りしたいと思います。原則公開となっているため、そのような形にし、ただしプライバシーや個人情報などは特に配慮しながら審議をし、そのような場合は非公開という形でいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは本策定委員会は原則公開で、必要のある場合のみ非公開という形で進めさせていただきます。なお、原則公開のため、ご発言については一定のご配慮をお願いいたします。では、続きまして「公開の手続きと方法について」事務局からご説明をお願いいたします。

事務局：ただいま委員長からお諮りいただき、この策定委員会は原則公開となりました。開催の告知につきましては、開催場所に応じて傍聴人の定員を定めた後、事前に掲示板やホームページ等で会議の開催公告を行うことで、周知を図ってまいりたいと考えています。また、議事録についてですが、資料4をご覧ください。本会議におきましては、会議終了後1カ月を目途に、全文筆記で作成することを原則とさせていただきたいと考えております。ただし、全文筆記については、特に重要な事項を扱う場合を除き、発言内容に齟齬が生じない範囲で修正および簡略化させていただき、市ホームページに掲載したいと存じます。なお、本会議の議事録につきましては、松原市情報公開条例に基づき、非公開情報を除いて公開するものとなりますので、ご了承をお願いいたします。また、議事録の確認につきましては、公表前に事前に各委員会にご一読いただいた後、ご承認いただき、公開させていただきたいと考えております。次に会議の傍聴手続、傍聴人の守るべき事項等がございますが、資料5「松原市教育振興基本計画策定委員会傍聴要領」により、実施してまいります。説明は以上でございます。

委員長：事務局から説明していただきました。ここまでのところで何か確認やご意見などあれば、お願いいたします。よろしいでしょうか。初めて来られた場合は、質問しづらいと思いますが、何かわからないことがあれば質問をお願いいたします。では議事録の名前です。皆様方委員のお名前の記載方法になりますが、前回の計画同様に自由で円滑な意見交換のために、個人名は記載せずに委員の意見は「委員」という名称だけを用いて記載する方法を採用したいと思いますが、ご異議ないでしょうか。ありがとうございます。では議事録につきまして、記名はしないという形で委員の意見を載せていただくこととしたいと思います。次に傍聴人のことですが、本日、傍聴人の方はいらっしゃいますか。

事務局：本日はおられません。

委員長：それでは続けて議事を進めたいと思います。では次に議案4「今後のスケジュールについて」を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局：それでは、今後のスケジュールにつきましてご説明申し上げます。資料6「審議予定」をご覧ください。資料6につきましては、今後の策定委員会でご審議いただく内容と委員会のおおよその開催時期を記載させていただいております。教育振興基本計画につきましては、令和4年度、令和5年度の2か年で策定していきたいと考えております。本日が1回目となります。令和4年度では、本日を含めまして、3回の委員会開催を考えており、内容としましては計画の骨子までを策定していきたいと考えております。市の計画につきましては、広く市民の方々からご意見をいただくようにパブリックコメントを実施する決まりとなっています。令和5年度では、パブリックコメントを実施し計画(案)の策定、教

育委員会への答申までを5回の策定委員会にてご審議いただきます。以上、説明とさせていただきます。

委員長：ここまでのところで確認していただきたいことがありましたら。別個に冊子が届いたかと思いますが、これが現行の基本計画になっています。これを我々で中身を作っていくということです。ただゼロから作るわけではありません。これまでのことを引き継ぐところを引き継ぎ、そして新しく加えるところは加えるということです。あとでアンケートのことも出てくるため、そこでまた説明をいたします。このような冊子を作るという、いわば実際の作業は事務局がなさいますが、それに対して、この委員会で意見をそれぞれの立場で言っていただき盛り込めるものは盛り込んでいく、そのような作業をしていくということになります。また何か確認されたいことがあれば、どうぞ後でも結構です、お願いいたします。では次に議案5「第2期松原市教育振興基本計画の策定方針（案）」、ここで具体的に述べてくるかと思えます。では事務局から説明、よろしくお願ひいたします。

(5) 第2期松原市教育振興基本計画の策定方針（案）について

事務局：お手元の資料7をご覧ください。「松原市教育振興基本計画の策定方針（案）」でございます。1. 計画策定の理由ですが、まず現在までの教育振興基本計画の動きについて記載しています。下から6行目の「今回、」以降につきましては、現在の計画が令和5年度までの計画期間であり、令和6年度から令和10年度までの5年間を計画期間とした新しい計画の策定に向けて、令和4年度から着手していく事について、記載しています。策定に関しましては、現在の計画の評価検証を行うことと、市民ニーズを把握した上で松原市第5次総合計画、国府の教育振興基本計画や社会、経済情勢等の変化を踏まえ策定していく事を記載しています。2. 国・府の計画ですが、国、府の計画につきましてはそれぞれ令和5年度から次期計画が始まります。

委員長：先ほど教育長からも松原市の教育大綱を具現化するものが、教育振興基本計画であるとおっしゃったと思います。これが、今、私が手元にかざしています、このページが、教育基本計画の全体像です。開きますとその左側に、松原市教育大綱と言うのがあり、これを具現化していき右のようにより細かく細分化し、基本計画を作っていくという、その部分について今事務局から説明があったということになります。このような資料を読んでもいかないと、何をどうしたらいいかということが見えてこないと思います。この時間内であるということはとても難しいため、委員の皆様、読み込んでいただければありがたいです。ここまでどうでしょうか。何か確認したいことなどございますか。

委員：少々聞き逃したのですが、教育大綱は、どこかで作られるのですか。

委員長：そうですね。これも作り直していくところですよ。

事務局：はい。教育大綱の方も令和5年の末まで、この教育大綱ということになっております。令和6年度からの教育大綱につきましては、今回皆様方でご審議いただきます市民意識調査の結果に基づきまして、教育大綱の方は今年度中には作っていきたくと考えているところでございます。以上でございます。

委員：どこか別の方がやっておられるということですか。

事務局：そうです。教育大綱ですが、これは市長が定めるという形になっております。このニーズ調査の内容なども私どもの方からご助言申し上げまして、市長が定めていくという形になっております。以上でございます。

委員長：分厚い資料の資料9の1ページ目、6ページです。ここに図があり、松原市の市長が教育大綱は作り、これは令和5年までですが、これをまたリニューアルをしていくという作業を別個に別の委員でなされていく。ただ我々が今回着手するものは、現在の教育大綱に基づいてということによろしいでしょうか。

事務局：今回、教育大綱も来年1月、2月には定めていきたいと考えています。それに基づきまして、その教育大綱から計画は作っていくという形になります。計画に関しましては、国・府の計画などを参酌していくことになるため、そのあたりの部分を情報提供し、この委員会の中でいろいろご審議いただく形になると思っています。以上でございます。

委員長：よろしいですか。我々は教育委員会の中での別の組織で作業していくということで、さきほどの教育大綱の組織とはまったく組織が違うということであります。委員の皆さん方いかがでしょうか。私も1年目やっていた時は、全体像が見えなく何が何だかわからなかったのですが、全部読んで1回やって、なんとなく見えてくるということもあり、初めて参加される方にとって、いろいろな情報がたくさん入り、今すぐに整理つかないことだと思います。また今日中に質問等がなければ、事務局の方に後日でも質問していただければと思います。では、引き続きいきたいと思えます。議案6です。「市民意識調査アンケート（案）について」させていただきたいと思えます。事務局より説明をお願いいたします。

（6）市民意識調査アンケート（案）について

事務局：この調査は本計画の策定資料とすることを目的に18歳以上の市民1000人を対象に無作為抽出をおこない、学校園教育や社会教育について、ご意見をお聞かせいただきたく実施するものです。前回の教育振興基本計画（後期計画）策定時にもアンケートを実施しておりますので、このときのアンケートと同様の設問をお聞きすることによって、市民意識の経年変化を調査します。また、コロナ禍における一人一台パソコンの導入や、学校と地域との結びつき、社会人の学び直しなど、教育を取り巻く新しい環境に係る設問を追加し、新計画にも反映をしてみたいと考えております。前回のアンケートは、平成30年6月に実施し、有効回答率43.3%でした。今回は、回答率の向上を狙い、URLやQRコードを記載し、パソコンや、スマホでも回答できるようにする予定です。なお、前回の計画策定時に、策定委員からアンケートを取るならば、設問設定の段階から、策定委員会の委員に意見を聞いてから、アンケートを実施してほしいとのご意見がありましたので、今回の計画では、アンケートの設問設定の段階から、策定委員の皆さまのご意見を反映させる場を設けております。それでは、まず、前回のアンケートの調査概要についてご覧いただきたいと思えます。資料8中の右上に参考資料と書かれたものをご覧ください。こちらは前回アンケート調査の概要となります。2、調査結果の概要をご覧ください。（1）学校園教育についてお聞きした結果、5行目より、市が力を入れる必要があると思う項目として、「いじめや不登校の未然防止に関する生徒指導の充実を図る」「子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する」「防災・防犯教育を充実し、安心安全な学校づくりを推進」などが上位に挙げられています。（2）家庭での教育についてお聞きした結果、4行目より、家庭の教育力を高めるために必要な取組みとして、「保護者がしつけや教育について相談できる場所をつくる」や「保護者が子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ」「子どもが保護者以外の大人（祖父母、近所の人）とふれあう機会を増やす」「子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」などが上位に挙げられています。次のページをご覧ください。（3）地域での教育について、1行目より、地域の教育力（地域社会の中で子どもたちが大人や異なる年齢の友人たちとの交流を通じた様々な体験などができる教育機能のこと）に対する評価としては、機能している（「機能している」と「ある程度は機能している」の合計）を回答した人は、機能していない（「あまり機能していない」と「機能していない」の合計）を回

答した人を大きく下回っています。本市において、地域の教育力の向上が喫緊の課題であることがうかがえます。同じページの(4)生涯学習・文化・スポーツなどの活動については、7行目本市において、生涯学習・文化・スポーツなどの活動についてのニーズはあるものの、実際の活動につながっていない実態があり、下から2行目、参加への意欲を実際の活動につなげていくためのきっかけづくりや、気軽に参加できる機会づくり、施設等の環境整備が求められていると考えられます。以上が、前回のアンケートの結果、調査概要になります。それでは今回の設問の構成について、項目ごとにご説明をいたします。資料8をはじめからお願いします。なお、今回のアンケートにおいて、前回のアンケートから新たに追加した設問はグレー表示をしております。設問の構成について、問1から問6につきましては、回答者自身について聞いています。次に問7から10は学校園教育について聞いています。問7は学校園教育の現在の取り組み評価、問8から問10については施策の将来意向として、将来子ども像、身につけるべき能力・態度、施策・事業注力度合を聞いています。なお、問9では、グレー表示の能力や態度が身につけているかどうかの設問や、自ら学び、考え、主体的に行動する力、ICTを活用しようとする姿勢や能力、多様な人々がお互いに認め合い、共に生きる姿勢を追加しています。追加説明としまして、参考資料6をご覧ください。これは、文部科学省の諮問機関、中央教育審議会が出した「令和の日本型学校教育」の構築を目指しての答申、総論解説です。1ページ目の右上にこれからの子どもたちに育むべき資質・能力として、記載されております。「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが出来るようにすることが必要」とあります。多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、ICTを活用したコミュニケーション能力の向上などの人間性等を育むことが義務教育に必要な要素と指摘がされていることから、今回のアンケート設問にも追加をしております。次に問11から16については家庭教育・地域教育について聞いています。問11においては、前回調査において、地域の教育力が機能していないとの回答が多く、地域の教育力向上が求められています。問13において、地域の教育力向上を目指して、2022年度から導入されたコミュニティスクールを追加しています。コミュニティスクールには、大きく3つの機能があり、①学校運営、②学校支援、③地域貢献を有し、地域で子どもたちの成長を見守る制度となっております。問14では、コロナ禍の影響を把握し、問15では、松原市の教育における重点的な課題を市民目線で把握します。問16では、コミュニティスクールの推進にあたって、潜在的な市民ニーズを把握します。続いて、問17・18・19・20については、生涯学習・文化活動について聞いています。参加状況や参加意向、取組みの評価、今後の充実させるための取組みについて聞いています。また、問18では、リカレント教育について、聞いています。リカレント教育とは、人生100年時代を迎える日本では、終身雇用の社会から、転職することが当たり前になってきています。学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び専門的な知識やスキルを学ぶ「社会人の学び直し」を指します。以上が市民意識調査アンケートの内容となります。アンケートの回答者の負担軽減と郵送費の関係もあり、8ページに収まるようにしたいと考えております。次に資料8の後ろに横書き部分に子どもアンケートがございますので、ご覧ください。今回は、学習の主体者である子どもたちにもアンケートをお願いしたいと考えております。一人一台配備された端末を利用し、回答をしてもらう予定です。こちらの内容については、まず自分自身のこと、次に学校生活について、家庭や地域での生活について大きく3つに分けて答えてもらう予定にしております。小学6年生、中学3年生を対象にしている理由ですが、全国学力・学習状況調査と同じ学年としています。また、全国学力・学習状況調査において、明らかに重複する内容はなるべく省くようにしています。説明は以上となります。

委員長：説明ありがとうございました。市民アンケートがひとつ、もう一つは小学6年生と

中学3年生にタブレット端末を使って。これは学校で実施するということですか、一斉に。

事務局： はい、そうです。学校の履修時間に配られたパソコンを利用しまして、子どもたちに回答してもらいます。

委員長： そうすると、小学6年生と中学3年生全員が対象となるということですか。そこはまた学校にお願いするということですか。

事務局： はい。

委員長： ということで、大きく2つのアンケートです。まず市民アンケートの方から見ていきたいと思えます。それが資料の8の1ページ目からですが、ここはいわゆるお願い文だと思えます。ここはよろしいでしょうか。何かお気づきの点があれば、また後でもお願ひします。資料8の2ページに入ったところからが具体的に問う内容で、しかも新たに付け加えられた項目は網掛けされています。少々ご覧いただき、お気づきの点があれば。

委員： 性別の網掛け3と4の項目新しくつけてあります。だから「男」か「女」は1か2、3が「1、2にあてはまらない」、「4答えない」と。なかなかこれは難しい。これは子どもにもあるわけですよ。これはもしわたしなら1、3にするか4にするか。それなら「4答えない」だけでよいのではないかと、すっきりするのではないかとと思ひますが。

委員長： いかがですか。

委員： 答えない人も当然あると思ひるので、4を3にすればどうですか。

委員長： というご提案ですよ。他の委員の皆様はいかがでしょう。ここは非常に微妙なところですよ。

委員： 少し考えてください。

委員長： このあたりはアンケートという点でどうですか。性別を聞くというのは。

委員： 最近3のようなものも増えてきていると思ひますが、3と4を分けているのは、本人の意思を尊重しているという意味ですよ。答えたくないに組み込まれたくないという人がいるのではないかと、されているのではないかと。わたしはあってもよいと思ひますが。

委員長： 例えば、「わからない」と答える人も結構います。それが「1、2にあてはまらない」ということと、「わからない」ということは違うのです。性認識としてそのあたりの悩みが多様化しているため、ここを非常にどのようにするのかですよ。答えないというのも微妙だし、どうしようかということで、子どもたちへのアンケートも、そこは慎重にしないと文部科学省もLGBTのことを最近強調してきていますし、どのように聞くかと。

委員： 市民の方も、子どもの方もですが、性別を聞き性差によって何か明らかにする意図はあるのですか。ないなら聞かなくてよいのではないかと思ひのです。いきなりの最初の方なので、どちらにしても「男女別でわかる」や「3」にした人に関して、このような特徴があるなど分析をしないのであれば、いろいろなアンケートが性別に関しては、「聞かない」という方向性もあるのかと思ひのですが、いかがでしょう。

委員長：これまではどうですか。アンケートの集計は。

事務局：特におっしゃられていますように、男性女性で何かを図るということはしていないため削除していただいても大丈夫です。

委員長：これまでのアンケートとしても、男女別の物を出していないということですね。そのようなことは今まで重視してなかったということで、今、委員の方からは、今後も今回の基本計画も男女別を出さなくてよいのではないかとのご意見ですが、いかがでしょうか。

委員：今おっしゃったように L G B T の関係が出てきて、市民協働の方でいうと、防災関係の避難場所としての位置づけの中で、今質問しているところが逆に言うとトイレが使いやすいかということで、従来はハンディキャップの方用のトイレを言っていたが、今は多目的トイレというかたちで L G B T の方用に使えるような形に持っていきなさいと。本当はアンケートで「男子」、「女子」、「わからない」、「答えたくない」程度の選択があるほうが、学校の施設に対する期待感が変わらると思うのです。だから「性別男子は男子トイレを使いなさい」や「性別女子は女子トイレを使いなさい」とは、今の文言では耐えられない時代になってきているので、そこの「答えたくない」か「わからない」ということは、今の L G B T のもう一個上の「自分でよくわからない」というパターンというものが最先端ではないかと思うのですが、聞く限りそのあたりも意識して聞くような設問も設定していただければと思います。ただし、「避難災害時のトイレが使いにくかった」や従来だと「洋式より和式が多くて年配の人はつらかった」などということが、5年、10年前は出ていました。今から出すにあたって5年後、10年後を予測するのなら、もっと学校の施設というものは避難時に使いやすいような環境に持っていくべきで、そのような期待は市民の方、増えてくると思う。そこは施設の問題になるから、どこまで学校に対するリクエストとして期待できるように持っていくのかを含めて、アンケートに返事をもらう方がよいのではないかと思います。

委員長：委員は性別を入れた方がよいのではないかと。

委員：そのあたりのニュアンスで言うと、入れている方が施設を触るときには必要になってくるのではないのでしょうか。もっと多目的トイレを増やしてほしいと言われ。今、現実問題で学校が5年前から含めて変わってきていることでいえば、男女の制服のパンツ化が増えています。そのあたりは市民限定の中で言えば、性別基準なら「答えたくない」、「わからない」という文言も入れるような形の質問になっているほうが、今の流れかと思えます。私はそのような形でアンケートは取るべきかと思えます。ただ小学校の子は「わからない」と答える率が高いのかな。「わからない」と答えられる質問の返事を用意してほしいと思います。「当てはまらない」と言うには自分がどこか帰属したいから「わからない」ということが一番答えやすいのかな。

委員：2つ意見と質問ですが、このような性別の聞き方が、いま本当に最先端なのかということが1点と、2点目は性別によって分析するのではないならば、例えば多目的トイレに関して、今後ないのは困るなどという設問を入れるならば、それは性にもよるかもしれませんが、それを聞いた上で取る必要が実はあるのかと私は少し思いました。最初の方に性別がポンと来るのに関しては、抵抗を持たれる方は子どもを含め、あんまりだなという気はします。

委員長：まず市民アンケートは18歳以上ということのため、成人についてはある程度いろいろ情報を得て、いろいろなことを考えていると思うのです。ところが、小学6年生や中学

3年生となってくると、少し違うため、そこはわけて考えた方がよいと思うのです。学校場面の子ども対象ということと、18歳以上ということは違うと思うのです。そのところはわけてと。これまでの資料では、そこまではなかったということは間違いないのですね。

事務局：そうですね。これまで2回教育振興基本計画というものは作っており、それを土台にアンケート調査をしておりますが、その時はこの設問1性別のところは「男性」、「女性」のみの回答ということでさせていただきました。先ほどから委員の方からお話がありました通り、現在小学校・中学校のトイレにつきましては、いろいろな方が使えるようにということで、「みんなのトイレ」という形で多目的トイレを設けていくという方針で、教育委員会の方はトイレの改修を行っているところです。このアンケートにつきましては、この策定委員会に出ささせていただく前に教育委員会内で考えをまとめまして、出ささせていただいたものではございますが、この出ささせていただいたものを再度、中で調整をさせていただいたところ性別についてはアンケートの統計などに関わりがないのであれば取った方がよいのではないかと。また子どもさん方にはタブレットでこれには回答していただくのですが、やはり子どもさん同士の中で、「あなたどれに○をした」など、そのようなことが聞かれる可能性があるためこのあたりは取ってよいのではないかと職員の中でも話はございました。そのあたりにつきましては、委員の皆様方でご審議いただければと思っております。以上です。

委員長：はい。非常に重要なところだと思うのですが。第1問ということで、年齢や性別など聞いていくことは一般的なアンケートの進め方ではあるため、ではこれを途中で持っていけばよいという問題ではないと思うのです。聞くのであれば、年齢・性別から聞いていくということがおそらく今までのアンケートに慣れている方にとって自然かと思うため、後は性別を入れるかどうか、年齢は必要ですね。大体の年代ということは具体的な年齢を聞いているわけではなく、年齢層によって意識を見ようとしていますよね。

事務局：年齢の部分につきましては、子育て年代なのかどうか、お孫さんを持った年代なのか、子どもさんはいないが今まで教育を受けていた年代なのかということも統計に含めていきたいと考えているため、この年代につきましては必要かと思っております。

委員長：あと性別ですが、いかがいたしましょう。今すぐに決めなくても、アンケートは遅くてもいつ実施するのですか。

事務局：今回このアンケートの設問の部分をご審議いただき、第2回目の会議でアンケートの内容をまとめさせていただいて、10月中旬にアンケートを実施していきたいと考えていますので、そこまでご意見をいただければと思っております。

委員長：性別を聞く場合には「男性」、「女性」、それから「答えたくない」、「わからない」という項目を入れるというご提案が一つ、それからもう性別を取ってもよいのではないかとのご意見と二つあります。そうすると、例えば他の市民アンケートではどのようになっていますか。今、そこを市として方向性があるのならば統一したほうがよいと思うのですが、その情報はいかがですか。

事務局：いま情報が手元にはないのですが、やはり性別につきましては、今回載せさせていただいたような「男性」、「女性」、ご意見ありました「当てはまらない」ではなく「わからない」や「答えない」などの種類のものが、今のところアンケートには載っているという形にはなっております。それにつきましてはどのようにするかというご意見はいろいろ入ってくると思っております。

委員長：逆にそのようなアンケートを取ってみて、このようなことをなぜ聞くのかと苦情や質問などはありましたか。

事務局：今の段階では、そこまでの話は聞いておりませんが、なかなか答えにくい部分ではあるのかと思っております。

委員長：記入しない人もいますよ。まったく丸をつけないという人もいると思うし、そのような意味では18歳以上であれば自由選択ということでまったく丸をつけないという選択肢も持っているため、確かに統計として使わないのであればというご意見もありますが、これまで他のアンケートでも入れているのならば、入れてもよいのかと私は思いますが、皆様方がでしょうか。

委員：基本的には市民の方が考えて答えるだろうという話のため、そちらの方がよいのかと思いますが、子どもの方のことに関しては、やはりこれを教職員が子どもに配る時に若干抵抗があるのかと。これを本当に子どもに答えさせるのですかというようなことが当然出てくるのが予想されるということがあるため、子どもの方ではなくてもよいのかと思っております。

委員長：そうですね。年齢的にも低いということもありますし、中学3年生で15歳くらいですか。小学6年生だと12歳。まず市民アンケートの方ではどうでしょうか。盛り込むということですと、今出ているのが問1、問2はこのままいくとして問3がわからない。

委員：問3番を入れるという場合、中学校区は松原中学校区から松原第7中学校区があります。「8. 校区がわからない(町名)」、もしこれを入れるのなら行が増えますが、例えば松原中学校区だと具体的に松原小学校、松原西小学校、河合小学校と小学校の名前を入れてあげたほうがよりわかりやすい。「8. 校区がわからない(町名)」と書いてあっても、町名を書かれても校区が違うところあると思うのです。私は校区の後に小学校、例えば松原第2中学校だと三宅小学校など、そのように書いてあげないと、どこだったのかと思うことがあるため、一般の人にはより細かく小学校まで書いてあげた方がよいと私は思います。

事務局：わかりました。問3につきましては細かく書かせていただくようにいたします。

委員：小学校、わかれてないですか。

委員：小学校の中にわかれている。例えば、小学校が松原小学校や松原西小学校、河合小学校が松原中学校区ですよという校区。

委員：同じ小学校から違う中学校に行きますよ。松原第7中学校などそうでしょう。だからどのように書くのかと。

委員：なかなか難しい。

委員：もう1回、少し戻りますが、アンケートに答えてもらうのは1,000人を対象に無作為となっていますが、ただこの1,000人が男女五分五分で無作為に選びましたということと、今言うアンケートの結果で男女を書かせたところ9対1で男ばかりが無作為に選ばれていましたということでは、非常にデータの質が変わりますよね。今おっしゃっている無作為の中の1,000人は、世代を横に置いて性別に関しては半々ぐらいを無作為とい

うイメージでよいのですか。

事務局：はい、そのような形で抽出されると思います。

委員：それらを回収した時に、例えば「男子の方が回収率は高かった」や「女のお子さんおもちの女の方が回収率は高かった」などということは色として出ますよね。

委員長：そうです。それを見るために私は必要だと思ったのです、男女ということは。なぜならば、回収率43.3%ですよ、前は低いですよ。その中でどの層が関心を持ってきていたかということ把握しておく方が、今後のいろいろな活動を行う上で、重要なことかと思えます。資料には盛り込めないとしても、私は思っております。いかがでしょうか。

委員：そこを私はお聞きしたくて。無作為ということが少々気になり、データ精度という意味であれば今委員が言われたように、男性・女性の割合が9対1であるなど、あと年代層によっても大きく変わってくると思うのです。そのような意味でおそらくこのデータも5年ごとにトレンドを取っていくという意味があるのならば、ある程度年代層や男女比率であるなど合わせておいた方がよいのかと感じました。

事務局：今回、少し子育て世代を重視して抽出の方はしていきたいと思えます。

委員：ということは同じ数だけ世代から取るのでなくて、ということでもいいですか。

事務局：20代、30代、40代、50代を増やしてという形で思っております。

委員：別の自治体ですけど若者は返してこないの、おおめに抽出する、最初から。やっているとこがある、若い人には多めに配るといのも、一つ良いのかなと思っています。

委員長：それもあって今回QRコードを付けています。少しでもスマホを使ってやってもらう。紙ベースでなくて。それで変わるかどうかを見たいですね。若い年代が回答するかどうか。

事務局：おっしゃる通りです。

委員長：抽出の仕方とか選び方を少し検討してもらえませんか。どこまで事務作業として可能なかということもありますし、我々はこうして希望を出していますが、現実的にどこまで可能なかどうか。

事務局：分かりました。

委員長：抽出の仕方について、次回では遅いですか。次回の委員会でこうしますというのは。

事務局：子育て世代重視というところで20代、30代、40代、50代と少し幅を持たせた抽出方法で、データ抽出担当へ依頼をしているところです。

委員長：こういう形でもよろしいでしょうか。今日ある程度承認を頂かないと進まないようなので。話が。次回の会議は10月ですよ。開催予定が。

事務局：10月7日に召集をさせていただきたいと思っております。

委員長：抽出の業者の関連もありますし、今の若い方も入れたほうが良いですか。

委員：そう思いますけど。過去の回答率がいくつかわかりますか。回収率が年齢別はないですか。

委員長：年齢別は入ってなかったと思います。

事務局：また、この後お示しさせていただく形で。

委員長：他にご提案とか、ご意見とかありませんか。

委員：問1のところで、年齢と共に抽出方法ということですが、よろしいでしょうか。

委員長：見つかりました。

事務局：この資料集の後ろの方13頁というところ。

委員：資料集の13頁。

委員長：はい有りましたね。

事務局：13頁、資料22というところ。

委員：バランスはとれていますね。

委員長：どうですか。これだと。

委員：後期高齢者が一杯とか。

委員：やはり若年層は回答率が低いという感じですね。回答が帰ってきているエの数字で、どれだけ出したかは見ることはできないですか、年代ごとの回答率は出てないと思いますが、エの数字だけ見たら若年層というか29歳までのところが、やはり34しか帰って来て無いことでいくと、回答率が低いということですよ、相対として。

委員長：業者がやれると思いますが。年代別の回収率は出せますよね。

事務局：はい。

委員長：30代なら30代で何件出したか、何件戻ったかは回収率出ますよね。そういうことなんかを今後出してもらったら、次に生きてくるかなと思います。ご提案の抽出では、こういう形で進めさせていただくことでよろしいでしょうか。あと、また戻りますが性別については、ご意見としては1男性、2女性、3わからない だいたいそれでいいですか。

委員：答えないは「わからない」。

委員長：おそらく答えない、回答しないと。18才になったらそういう選択が出来る人たちという期待をしています。小中学生は、そこまで難しいのではないかなと思います。QRコ

ードで、WEB上で回答するのは、例えば問1に回答しなかったから次に進めませんと、そんなことはあり得ないですよ、システム上、無回答な部分があってもかまわないわけです。そうゆうふうなシステムにしてもらっておけば問題ないと思います。それでよろしいでしょうか。18歳以上ということ。年齢は年代必要ですよ。あとほか、如何でしょうか、事務局の方からの、これは私の方で言うて良いでしょうか、職業選択のこと。事務局の提案として職業選択の欄、問の4ですが必要でしょうかという案が出ていますが、委員の皆さまいかがでしょうか。

事務局：事務局の方で先ほどお話ししましたとおり、アンケート案を出した後に、再度色々事務局の中で話した結果、職業欄については必要ないのではないかと、職業欄自体が何かにリンクしているというわけではありませんので、そのことに関しては抜いても良いのではないかと意見が出ていたわけです。

委員長：他の自治体との比較をやっているわけでも無いし、ということですよ。他のことでリンクしてないこと。だったら良いじゃないですか、今回抜くということ。では今回、問4の職業欄は削除するということにしたいと思います。それからこの、2頁、3頁目はこれでよろしいでしょうか。では次の頁、4頁、5頁目で問9ですが、問9は項目で網掛けの箇所が3箇所あって、現在の状況で「1. 身についている」、「2. 身についていない」という項目が入っています。いかがでしょうか。ここは、事務局のほうの提案、案の報告をお願いします。

事務局：事務局からですが、この部分につきましては無作為に出して頂くにしても、お年寄り現在65歳以上が30パーセントいる状況の中で、お年寄りに関しましては、子どもが「身についている」か、「身についていない」のか分からないのではないかと意見が出ました。適当に付けられるのであれば、「わからない」という項目をここに付け足したほうがより正確な数字を出して頂けるのではないかと、という案が出ていたわけです。

委員長：現在の状況、ここどうでしょうか、新しく付け加えること自体、それから付け加えるとしたら「わからない」ということを追加してはどうかという事務局の案は如何でしょうか。

委員：良いと思います。質問を対面でするとき、「身についている」と思うか、「身についていない」と思うか二者択一で聞かれると、どちらが説明が少なくて済むかと思ったら、いの方ですよ。否定的に物事言ってしまったらいけない。わからないがあればわからないと返事する確率が高いと思うんですね。どちらか選べといわれると、肯定的なほうに丸をしようというのは具体的なイメージがないと出来ないで、面倒くさいから、わからないにしようかというのがアンケートの時の性向じゃないですかね。

事務局：「わからない」を設けさせて頂いて、年齢の年代別の方法もございますので、年代別の方で、変な言い方ですがお年寄りの方、子どもが居ないのではないかとという方と、子育て年代というところでチョットした統計は取れるのではないかと考えておりますので、事務局サイドとしましては、わからないという欄を設けさせて頂いたら、ありがたいと思っております。

委員長：新しく現在の状況を付け加えるということに委員会の皆様方、異論はないですか。さらにプラスの提案として、それであれば「わからない」を追加した方が答えやすいのではないかと。

委員：それは新しく入ったのですか。

委員長：そうです。網掛けのところに新しく入ったと。

委員：なんでまた。

委員長：追加した理由を。

委員：詳しく。

事務局：国の諮問にもあるとおり、生きる力がこれから特に求められていますので、そういった状態を聞いた時に、現在の状況を保護者の方が、一体どう感じているのかをお聞きしたいとして、「身についている」「身についていない」を追加させて頂きました。

委員：保護少年、自分自身にということですか。自分の子どものことですかね。

事務局：子どものいない家庭に関しましては、中々難しい所がありますので、わからないという設問を付けようかと考えている所です。

委員：この「身についている」「身についていない」は回答された方が、今の子どもを見て感じる所を回答する所ですかね。

委員：難しいと思うところが多い。細かいというか、僕が保護者だったら丸を付けないというか、適当にばあっと丸を付けると思うのですよ。一個々々どういうことだろうと思って、丁寧にすることが。すごく学校のことがよく分かっていて、自分の子どもが教科は丸で、学び考えが丸でするのかと、気になっていて、ただ右側の重要性は大事だと思っているけど、「身についている」、「身についていない」等主観的な意見を聞く理由が良く分からないというか、テストとか見たらその話かなと思って。

事務局：例えば2番の「自ら学び、考え、主体的に行動する力」とか新しく追加したところですが、6番の「ICTを活用しようとする姿勢や能力」など、今後子どもたちに求められる能力というのですか、そういう所を今現在の状況で保護者の方々や一般市民の方々が、こういった形を持っておられるのか知りたいところで入れさせてもらい、もちろん難しいところはありますので、あと出しですが、「わからない」という設問も追加させてもらえればと今思っている状態です。

委員：どんな風に思っておられるかということですか、わかりました。学校の先生に聞けば良いかなと思ひまして。

委員長：委員先ほど何か確認されていましたが。

委員：私は重要度で言うと、「とても重要」「やや重要」と思われる項目って、子育て世代と子育てを一旦終えた方では考えが違うんだろうなど。その考えと今の現状を見たときのギャップの広さを見るのかなと思っていました。例えば子育て世代がここは重要と思っているけど、今の子どもたちがそんな状態じゃないと思っているギャップが広ければ、教育の分野でどう取り組んでいくかという議論がしやすいのかなと、その為かなと思っていたので、23項目あるけれど、あまり重要ではないと思う項目も検討して調べる必要はないのかなと、23項目は多いかなと思って見ていました。

委員：ほとんど1と2に丸と違うかな。「3. あまり重要じゃない」「重要じゃない」はほとんど意味違うから。この項目で言うたら。

委員：重要か、重要でないかというのと全部重要に丸つける。重要のところ一杯丸付いているのでしたらギャップというか現状見ていたら、ギャップというのは世代毎に違いうだろうし、分析を投げかけている時に使える項目かもしれないなど。文部科学省の打ち出している教育についてどういう認識があるのかを調べたいということなので、その網掛けのところの2番、6番、14番を足されたのはそうだろうなと思いますし、分析の仕方によって出したい結論というか、変わってくるだろうから一回とってみても良いのかなと。ただ「わからない」という項目を付けないとおじいちゃん、おばあちゃんは困るだろうなあと。

委員長：今回抽出の方法を前回より変えますし、その上でこのアンケートの結果からアンケートの項目をどうするか、選択肢をどうするかを考え直した方が良いかもしれませんね。

事務局：と言うことは、ひとまず23問は多いなと。

委員長：確かに3問増えていますので、前は20問だったのですよね、3問増えていますのでかなり多いですね。

委員：どれを省くかも難しいですね。

委員：これとこれを比べたらどっちが重要ですかと聞くんだったら良いのですが、これはそうじゃないので。

委員：どれもこれも重要で全部丸付けちゃうよなと。

委員長：可能性はありそうですね。

委員：子どもにとって不必要な力は無いので。それと「身につけている」、「身につけていない」という主観でも良いので感覚のギャップみたいなものを重要視して、今回分析するのであれば分からないことでもないなと。

委員長：よろしいでしょうか、2番と6番と14番は新しく入った項目も含めてこれでご理解いただけるかどうか、あと現在の状況のところでは3番として「わからない」を追加することです。よろしいですか。

委員：いいと思います。2、6、14は時代で求められていることで認識しますし、これからその方向で学校教育を考えていかなければいけないので、よく理解します。賛同します。先ほど言われた現在の状況がわからないという内容を答えていただくアンケートの精度をより高める方が良いかと考えます。

委員長：ありがとうございます。なかなか完璧なものを作るのは難しいものです。4年後5年後になりますが、そこでまた改良していきます。ひとまずこれでよろしいでしょうか。次にまいります。問10、11はこれでよろしいでしょうか。新しく追加されたものはありません。次にまいります。

委員：問10で大事なものを選んでもらうほうが良いのかなと思って考えていました。同時

に、その他は作れますか。こんなことをして欲しいということを書く欄がないので、もし聞く気があれば聞いてほしい。こんなことがニーズとしてあると言うことを。

事務局：ご意見ありがとうございます。こちらのほうで聞いていきたいと思います。

委員長：問10のことは必要であると書くよりは重要かそうでないかを作った方が良くと。

委員：どちらが良いか分からないのですが、みんな1を付けられてもあんまり意味がない項目になってしまうと思って。

委員長：それは難しいところですね。

委員：前回はこれだからあんまり10番は意味がないと。

委員長：そうなんですよ、時間がかかることなので。

委員：ニーズはどこか、この後でも。要望を折角だから。

事務局：問10は力を入れている教育施策についてと聞いていますので、ここは何かしら、その他項目を活用する方法を提案したいと思います。

委員：個人的ですが、「必要である」というニュアンスってありますでしょ。例えば1つの質問に対して「必要である」に丸を付けるということに関していえば、例えば期待するというのも「必要である」というニュアンスに近いですか。要は必要であるというのはね、お尻に火が付いている状態が多いと思うのですよね。親御さんが子どもを見ていて、必要であると答えるのは切羽詰まっているか、本当に必要だと思っているかで、今後の話として、期待しますと言う期待感を持って答える部分と、後ろで必要でない部分ってあるでしょう。答えに関して必要であるか必要でないか、必要でないと言うニュアンスについては期待していませんと言う印象でこたえられるのかで、必要であると期待するはイコールでイメージとしてはどうなのですか、伝わるものですか。

委員長：どうでしょうか。

委員：左側の「重要である」のニュアンスをさっき見ていて、「とても重要」のとてもニュアンスで言うとそのエネルギーが近いと思うので重要とか言っても分からないが期待しています、と言われたら今後を含めて期待してくれるとか、時間的余裕を持ってくれるから、でも必要ですよと言われたら、時間的余裕があって言っているのかとなる。今後に期待しますと言われたほうが励みになりますでしょう。質問のイメージと、答える人のイメージが、一緒なのかどうかなのですが、言葉によってどうなのかなと。必要である（期待します）で良いのだったら、それでイメージ。

委員：そこは必要だけど、勝手に期待しませんと言う人が多い。

委員：期待していないと言われるときの学校というのは、今期待されていないと言う認証を持たないといけない。そこまで手が回らないと思われれば、現状の学校に期待しません。たとえば前回バージョンだったら具体的にそう言われればいけません。現在、特に教えてもらいますと、学校では共同生活を教えてください、みたいなことを露骨にいう人が、いるから、学校に教育を期待していますかと聞いたときに一部の親御さんは学校には教育は期待してい

ません、共同生活の場慣れを期待していますというから。現実問題として見ているから、重要とか必要とか言うよりは期待しているとか、期待してないと言われたほうが、現実に近いアンケートの答えが出ていると思います。学校にはどういう風に期待していますかと言われるほうが返事はしやすいと思います。

委員長：アンケートが来た想定してどうですか。

委員：必要は必要だなと思います。だから自然と1、もしくは2に付けます。期待しますかと聞かれると、より考えて答えると思います。私の中で子どもを想像して、この子に期待になったら、よりイメージしやすい、考えやすいのは期待するとかでアンケートをとってもらった方が考えるかなと思います。

委員：ふり幅ができる。期待されると言われる方が、ひとつの答えに対してどれぐらい配慮してもらえるかという。重要と言われるとストライクゾーンが狭いイメージで答えるニュアンスがある。

委員：硬くなる、答えやすいのは。

委員長：他にいかがですか。

委員：私は、必要と期待は別物かなと言うのがあって、自分の子どもに直結するものに対してはやっぱり期待をする言葉と言うのは使えるのだけれど、保護者の中でもこの項目に対してピンとこない。体験しなかったものに対しては期待をすることが想像できないと言うのがあるので、そこは分ける方が良いのかと思います。でも、保護者としては期待するという言葉に対しては、真剣にアンケートする時点では考えるので、すごく良いのかなと思うのですが、全体を見るとすごく難しいアンケートだなと思います。子育て世代にスポットを当ててるのか、そうじゃない市民としてスポットを当ててるのかで、アンケート自体が変わってくるのかなと思うので、私自身も今これを見ている中で、イメージが付いて無いというのがあ

委員長：ある年代層だけをターゲットにするのだったら、辞退するという場合もあるし、広い年齢層にしたときにどうするかということですね。

委員：本当は必要であるか分からないので5つ選択肢の項目がありますが、たとえばオークション的に6つ目に期待するのがあれば、その方が答えをしやすいとは思いますが、言っていますように、イエスカノーで必要か、必要でないかという質問に対してだったら、割と機械的に条件反射でチェックすると思うのですよ。でも、期待しますかと聞かれたらウンとなって、少し悩んでから返事する部分と言うのは、自分の子どもや、学校の現場を見ていて、少しは悩むと思うのですよ。これはお孫さんを持っているおじいちゃんおばあちゃんでも一緒だと思うのですよ。経験値で必要か、必要でないかと別に、今の学校に期待されますかと聞いたときに出来たら孫をお預けするのに、ここを期待したいと思うことは、期待すると判断すると思うのですね。そこは学校に対してのリクエストじゃないけど、生身の声が出ると思うのですね。そういうアンケートの取り方が良いかどうかはちょっと。

委員長：統計的には難しいですね。こちらとしては出しづらいですよ。前回資料の後ろのほうの14頁のところに載っているのですねこれが。④の力を入れるべき教育施策や教育事業についてというところですよ。必要か、必要でないかあるいは重要か、重要でないかで、統計としては出してある。期待するか、期待しないかと感じになったらその項目しかないと統

計できない、集計できない。数値としてはどっちかでないと、混ぜると比較できない。

委員：前回と比較するとなれば、文言を変えると全体が変わってしまうから。14頁はとでも必要で、必要と書いてありますが、便宜的にこう書いているのですかね。

事務局：その割合だけを抽出したのですね。

委員：こちらは「必要である」、「どちらかといえば必要である」で新しいほうは。ここは「とても」と、「やや」となっていますが、文言は照会するだけ。変わらず。

事務局：質問の答えの方は今回入れさせて頂いている通り5項目、「必要である」から「わからない」まで、項目を控えさせて頂いて、全体としては「とても必要」、「やや必要」の数字を採らせていただいています。今おっしゃっていただいた通り、前回もここが必要との声が多ければ入れていかなければいけないところもあるので、ここに関しましては、振られた内容については同じ内容を出して頂いたら有難いなと思っております。

委員長：アンケートの難しさは、前々から比較したいのだったら、変えられない。難しい所があって、変えるとなると何処で変えるかとなる。これでよろしいでしょうか。議論を尽くしたうえで、これで行こうという。この委員会のようなことが必要だと思います。では次の6頁、7頁のところで、問12から問18のところですけど、委員会の方からご提案があるのですかね。問13から問18についてどうぞお願いします。

事務局：説明

委員長：ここまでで新しく入った項目は網掛になっています。それでご異存がなければこのアンケートでさせて頂きます。よろしいでしょうか。あと8頁これが全ての問20までが市民向けのアンケートになります。ご異存がなければ次に行きます。3枚、子ども用のほうに行きたいと思います。「Q1. あなたは何年生ですか。」これは当然聞かないといけないですが、「Q2性別」、これは無くした方が良くはないかというご意見がありますが、よろしいでしょうか、無くすという方向で。あとですね、事務局の方からQ4についてお願いします。

事務局：説明

委員長：回答をしやすい様に工夫していく。ということですね。質問自体が変わる事は無いということですね。

委員：例えばQ4で楽しくないと答えたら、Q5は答えないということですか。

事務局：そういうことです。設問としましてパソコンのフォームを使ってやりますので、Q4の方で「楽しい」、「どちらかといえば楽しい」を選びましたらQ5へ変わります。「あまり楽しくない」、「楽しくない」と答えられたら、Q5は出なくてQ6へ変わるということですが。

委員：楽しくないと答えても、楽しいことを答えて欲しいと僕は思うし。逆に楽しいと答えた人も、楽しくないときもあるから、兎に角答えられると思うのですが。

委員：質問のやり方を変えたら良いのではないですか。楽しいと思ったときとか、楽しいと

思う、言葉が出てこないのですが。

委員：「楽しい」、「楽しくない」はおいとして、「楽しいと思うとき」、「楽しくないと思うとき」はどんなときですか。と言う感じで聞いてみるのはどうですか。

委員長：確かにね、両方ありますのでね。ところがどういう仕掛けがあるかという、「学校に通うのは楽しいですか」はと不登校傾向を見たいときに使う質問なんです。それを把握しようとしてるのが見えてくるのです。

委員：では質問は楽しいと思うときはどんなときですかとか、そこが必要であればそんな聞き方が良いのかなと思います。楽しいと思ったときはどんなときですか。楽しいと思うときはどんなときですかと言うふうに少し変えてあげるほうが。

委員長：おっしゃる通りですね。学校に行くのが嫌だなと思っても、学校行ったら楽しいこともあるし、嫌な事もあるし決して4番で楽しくないと答えたからと言って5番を答えなくても良い問題じゃないと思いますよね。

事務局：先ほど委員の方からQ4を無くせば良いのではないかとご意見がございましたが、Q4を無くしてQ5、Q6を単独の質問としまして運営委員会に考えさせます。

委員：無くしちゃうんですか。

事務局：傾向をみたいとおっしゃっていたので、これが必要だったら、これについて順番変えて言葉変えて答えてもらうとか、傾向をみたいと委員長が言っておられていたので。

委員長：そこは今まで調査されてきた8番をどう思いますか。

委員：普通はありますけど、普通は大雑把な質問があった方が良いですけど。

委員長：楽しいですか、学校に来るのが楽しいですか。

事務局：「楽しい」、「楽しくない」を3番で聞いて。楽しくないと答えたら6を先に持ってきて、どういうときですかと、その後で、楽しいと思うこともありませんか、みたいな感じで答えてもらうのはどうですかね。

委員長：システム上どうするか。

事務局：それが出来るのだったらそうかなと。

事務局：今教えて頂きました通り、第4では「楽しい」、「楽しくない」というのも聞かせていただきまして、第5、第6のほうで楽しいと思えるのはどんなときですかと、文言の中身に質問の内容を変えて両方答えて頂けるような感じにはして行けるかなと思うのですけど。

委員：少し、とり方が難しい、意図的に感じるので先ほど委員がおっしゃっていた「楽しいと思うのはどんなときですか」と「楽しくないと思うのはどんなときですか」とそれにしたらどうですかね。

委員長：すっきりするんです、そのほうがそれは確かに大人の意図を感じなくて済むとは思

うんですけど。子どもの。

委員：通学、学校に行くことが楽しいですか、との聞き方と学校は貴方にとってほっとする居場所ですか、って聞くのでは、家庭環境の差もあるでしょう。学校が楽しい場所じゃなくて、家がしんどくて学校の方がほっとすると言う子もいれば、学校って通学することが楽しいと言うのが第1条件なのか、学校行くのがほっとするとか、学校はそういう場所であって欲しいと思うので、その文言はなんか学校行くのが楽しいですかという聞き方が一概に、切り取りとして良いのかどうか気になる。あなたにとって学校はほっとする場所ですかと聞く方が、まだ学校に来ることに対して行きにくい子は減入るだろうし、学校に来ることがほっとする一つの条件としては、学校に行ったら給食を食べられるという家庭環境の子がいるわけですよ。そんなのがどんな切り口で見えてくるかと言えば、楽しかったでは見えてこないと思うのですよ。学校に行ったら食べられるという答えを求めるのであれば学校に行ったらほっとすると言う場所の導きを添えてやらないと、子どもが救われない。Q5とQ6に関しては聞きたいことで良いんですが、Q4に関しては通学と言う以前に学校がほっとする居場所かどうかの質問の仕方で前回のアンケートと影響ないですか。少しは影響しますか。

委員長：これは初めてやります。今までは子どもたちにとってない。今回タブレットが全部子どもたちに行き渡ったのでとってみよう。新しく作るやつなのでご意見を頂いた方が良いです。

委員：例えばQ4のところを、「あなたは学校が楽しいですか（ホッとできますか）」と入れたら良い。

委員：それはニュアンスでどうかと思いますけどね。

委員：意外とクロス分析が出たら傾向が見えてくるかもしれませんね。例えば「楽しくない」と答えた子も、楽しいときって友達と遊んでいるときだったり、勉強が嫌で嫌で、「楽しくないよ」と思っている子だったりしているのです。小学生ってね。「学校行きたくないよ」というのだけれど結局、学校に来て友達と遊んでいるとき、物凄く笑顔だったり。傾向はクロス分析というか、楽しいと答えた子も、楽しくない場面って意外と勉強嫌と思っている子もいるだろうと思うので、そういった傾向は見えるかもしれない。不登校傾向で学校行きづらい子もこういうふう書きそうだなと思う項目ではなくて、楽しくないと書いた子も友達と遊んだりして楽しいと思う居場所があるとわかるだろうし。先生との会話は楽しいと思っている子もいるだろうし。傾向を分析してみると見えてくるものもあるんじゃないかと思えますね。

委員：これはストレートに「行きたい」「行きたくない」と聞くのはよろしくないですか。子どもの素直な意見を聞くためのアンケートがあれば、「行きたい」「行きたくない」など具体的な理由を聞かずに、子どもが本当にどう思っているのか現状を知るためのものであれば、子どもがどういう風に思っているのかを知ることができるのではないかと思います。

委員長：おっしゃる通りですね。

委員：Q6などは複数回答というのはそういうことだろうね。それでも一つでもQ5の楽しいにチェックが入っていれば学校に行くのだろうね。

委員：それでも傾向は見られるのでしょうかね。複数回答があるので。

委員：回答のことで言うたら、Q8のね、勉強が好きでない理由は何ですか（ひとつだけ）でしょう。こんなことはあり得ないですよ。それこそいくつでも、という風にしておいた方がいいですよ、こんな聞き方をするのであれば。ひとつというのは難しい。

委員長：話が飛びましたけど、Q8のひとつだけというのは確かにね。その他というところで家庭をイメージすると思うので、家庭のほうでの影響と授業が面白くないのもあるし複数回答あったほうが良いと思います。話が飛びましたけどそこを複数回答ということで。今のご提案では、学校へ行きたいのかが行きたくないのかがありました。行きたいか行きたくないかを問うのか、楽しいを問うのか、対象が小6と中3ですよ。年齢を考慮したときどちらが良いですか。

委員：4月の全国学力学習調査の時は楽しい、楽しくないで聞いているので一回それと比べて、学校で使うデータの場合はここでも良いかなと。同じことを聞いているので。

委員長：全国学力調査のほうでも同じく小6と中3になっていますから。これで楽しいとの表現のほうが良いのではないかというご意見ですか。

委員：4番で学校に通うのが楽しいですかと聞いてしまって、楽しくないと答えて、次に楽しいと思ったときはどんなときですかと聞かれるとえーとなってしまうので、4番を行きたいか行きたくないかとしといて、そのあとに5、6がスムーズに行くのかなと思うのです。学校が楽しいと思うときはどんなときですかとした方が4番、5番、6番のつながりは良いのかなと思います。

委員長：学力調査では楽しいと何について聞いているのですか。

委員：学校は楽しいですかでしたね。リンクすればいいと思います。

委員長：問5、問6については、学校が楽しいと思うときはどんなときですか。

委員：4からの繋がりをやっていると「楽しいですか」「楽しくないですか」と聞いて「楽しくない」となったときに、次に「楽しいと思うときはどんなときですか」と聞いたら、えーとなりますので、先ほどの「行きたい」「行きたくない」かで良いのであれば4、5、6の繋がりがナチュラルに水が流れるように聞けるのかなと。

委員長：問4は二択ということですか。

委員：問4は二択じゃなくても良いですが、ここで何を聞きたいかですよ。先ほど傾向と言われていたので。「行きたいか」「どちらかといえば行きたくない」。

委員長：4択ぐらいのほうが良いですよ。二択だと少し。聞きづらい。あんまり行きたくないと答えていても楽しいときもあるし楽しくないときもある。そういったものをプラスして見ていくというのがアンケートだと思うのです。

委員：これ先生、Q4を、あなたにとって学校は居心地が良いですかとすると。

委員：小学校6年生はそれをどう捉えるか。

委員：6年生は難しい。

委員：中学生は多分そういうことは分かるだろうなど。6年生で居心地がいい居心地がいい・・・をどう理解するかなと、居心地がいい居心地が良くない、の居場所があるかどうかは・・・割と高い年齢層だと意外とそういう聞き方をされてわかる子も居てるかなと。

委員：小6の子に聞くのだったら学校に行きたいかしか聞きようがないとか。

委員：単純にストレートに聞いた方が良いかな。

委員：後の5、6で何でという質問に対して自分で、複数でチェックしていく感じ、それだったらタブレットを前にして子どもが自分で出来る。

委員長：Q4をどうするかに絞られてきたかと思いますが、Q5、Q6は選択肢そのまままで間を少し変えることで落ち着いてきたかと思いますが、Q4はいかがいたしましょうか。多数ご意見をいただいたほうが良いと思いますが。

委員：「楽しい」という表現を変えて「行きたいと思いますか」にするか、居心地は小学6年生に好ましくない。

委員長：居心地は小学6年生には好ましくないとの意見が出ましたし。

委員：このままにするか、行きたいと思いますかにするかですね。

委員長：はい。例えば中3の子にQ4で楽しいですかと聞いていて次にQ5で楽しいと思うことはどんなときですかと聞かれて、戸惑いますか。

委員：私が思ったのは、思うのという言い方に変えた時点でそんなに戸惑わないかなと思います。行きたいですか、行きたくないですかと言われたときに、行きたくないけど楽しいよと。一般的な聞き方で行ったら楽しいですかというのが一番普通のきき方だろうと思う。

委員長：4番目なのですよ、4番目で行きたくないですかというのは少しきついですよね。どこに持ってくるかといえば後に持ってこられない。無難に4番目ですから楽しいですかと聞いていると思います。答えやすいように。中3だったらそのままQ5、Q6が来てもそんなに戸惑いは持たないという想像されますか。小6だったらどうですか。

委員：行きたくないか、行きたいかって。問い方が違うので、どうやってとらえるのかももう少し事務局で検討してもらって、次の時にもう一回、問方によって変わってくるのであれば問の持つ意味がね。全国調査と一緒にだなどという、子どもたちに馴染みのある問だなどと思います。ただ、問6で矛盾することを聞いていたというのがあるので、問の意味みたいのが欲しい。調べられたら調べてほしい。行きたいか行きたくないかで問うと、楽しいか楽しくないかで問うと問方の意味合いというか、後のクロスをかけていく時の意味合いも変わってくるので。

委員：楽しい楽しくないは定番すぎて、変えるとか外すというのはあまりピンと来なくて。これ聞いて、さらに聞くのは有かなと思っていて、要は市民調査で、さっきも言っていましたけど、こんな表を作って23個も聞いていることを思えば、楽しいですかの次に居心地が

いいですかとか3つ4つ似たようなカッコつきのようなものがあったとしても、別に可笑しくないとか、分析の仕方によるんですが、それを全部混ぜて足し算したりとかして、学校好きな子とかそうじゃない子とか出来なくもないが、問4自体は消さない方が良いでしょう。すみません。あまりに普通の質問なので。

委員長：全国で調査しているように、「楽しい」が、子どもには伝わりやすい表現だと思うんですね、4、5、6で楽しい、楽しくないなど、ここだけで楽しいシリーズがあってここはすんなりいくような気がするんです、子どもの感覚では。いかがですか。

委員：行きたい、行きたくないは答えやすいなと思うんですけど、4問くらい来た時にどちらかといえば行きたいとか、あまり行きたくないとかなってくると難しいなど、感じたんですけど。

委員長：時間が過ぎていきますね。どうですかまだ検討できますか次の会合で。

事務局：この案件ではこのままいくと大丈夫です。ご提案ですが、車のシャッターが21時半で閉まってしまうので、今回事案7が残っていますが、その後は次回に回させてもらって、今回このアンケートで終了させていただきますがいかがでしょうか。

委員長：そういたしますでしょうか。事案の7第2期松原市教育振興基本計画策定のための資料集については次回の会合で。この子どものアンケートについては次回の会合にでもということ。今案が出ているのを含めて事務局のほうで検討していただいて案を出していただきます。

事務局：問10の回答ですが出来れば次回に回させていただきたいと思います。

委員長：他に委員の皆様方お気づきの点がありましたら提案等々を事務局のほうに。子どものアンケートに関しましては次回に回したいと思います。

委員：一点だけ学校の先生について聞く部分で、Q20とかQ22だけ、設問がどちらかになっているので、あいまいな部分を増やしてもらった方が良いでしょうかなあと考えています。それだけです。

事務局：その辺の部分を事務局で考えさせてもらって次回にご提案できたらと思っております。

委員長：問の20と問の22検討をお願いします。事務局のほうから。

事務局：ご審議ありがとうございます。次回の会議の日程なのですが、10月7日金曜日午後6時半からを考えています。いかがでしょうか。

委員長：皆様方ご予定いただけましたら時間は6時半から。本日は、長時間ご議論いただきましてありがとうございました。